



くすり と 健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

子どもへの薬の飲ませ方

小さな子どもに薬を飲ませることは、意外に難しいものです。薬は普段飲んだり食べたりしているものと違うため、子どもが警戒してなかなか飲んでくれないことがあるためです。今回は、子どもに上手に薬を飲ませる、大人の工夫についてお話します。

いつも飲んでいいるジュースなどに薬を混ぜて飲ませるのは、有効な方法のひとつです。ヨーグルトやプリンのような半固形物に混ぜたり、下痢をしていないときは、アイスクリームなどと一緒に飲ませると、のど越しもよく飲ませやすいでしょう。

少量のミルクに薬を溶かして飲ませるのもよいでしょう。ただし、飲みたがらないときや、泣いて抵抗しているときに無理に飲ませようとす

ると、かえってミルク嫌いになる恐れがありますので、注意が必要です。おなかが減っているときや、のどが渴いているときは、少々味が悪くても飲むことがよくありますので、食前に飲ませてみるのもひとつの方法です。

また、人に褒められると、誰でもうれしいものです。少しでも薬を飲むことができるときに大げさに喜んであげること、子どもが自信を持ち、薬を飲ませやすくなります。

薬のタイプによっても、飲ませ方に違いがあります。

まず、水剤（シロップ）の場合は、薄めずに、そのまま飲ませるのが基本です。子どもが小さいときは、スポイトやスプーンなどを使って飲ませるのもよいでしょう。

粉薬（ドライシロップ、細粒、顆粒）の場合は、溶かす食品によって効果が弱まったり、かえって苦くなったりすることがありますので、注意が

必要です。ミノマイシンなどのテトラサクリン系抗生物質は、牛乳に混ぜると効果が弱くなります。また、クラリスロマイシン、ジスロマックなどのマクロライド系抗生物質は、溶かしたまま放置すると苦みが増すものがありますので、混ぜたらすぐに飲ませるようにしましょう。スポーツ飲料やヨーグルトなどに混ぜると、かえって苦くなりますので、避けてください。

言葉が理解できるころになると、薬だから（例：お熱が下がるから）などと、服薬意義を説明するのもよい方法です。どうしても、飲んでくれないときは、親の迫力が効を奏することもあります。

最後に、小さい子どもを持つ親は、誰もが薬を飲ませることに苦労されています。決して自分だけと思っくじけないようにしてください。これも子育て、そして教育です。